

088 カナンの女の信仰

マタイによる福音書 15 : 21~28、マルコによる福音書 7 : 24~30

21 イエスはそこをたち、ティルスとシドンの (フェニキア) 地方に行かれた。

→ティルスやシドンは、現在のレバノンがあるパレスチナ北部で、地中海に面し、フェニキア人 (非ユダヤ人) が住む重要な港町だった。イエスを拒絶する様々な者たちによる更に激しい反発は、イエスをさらに遠く引き離し、異邦人の地へと去らせた。



22 すると、この地に生まれた (ユダヤ人ではない) カナンの女が出て来て、「主よ、**ダビデの子よ**、わたしを憐れんでください。娘が悪霊にひどく苦しめられています」と叫んだ。

→マルコによる福音書 7 : 26

女はギリシア人でシリア・フェニキアの生まれであったが、娘から悪霊を追い出してくださいと頼んだ。

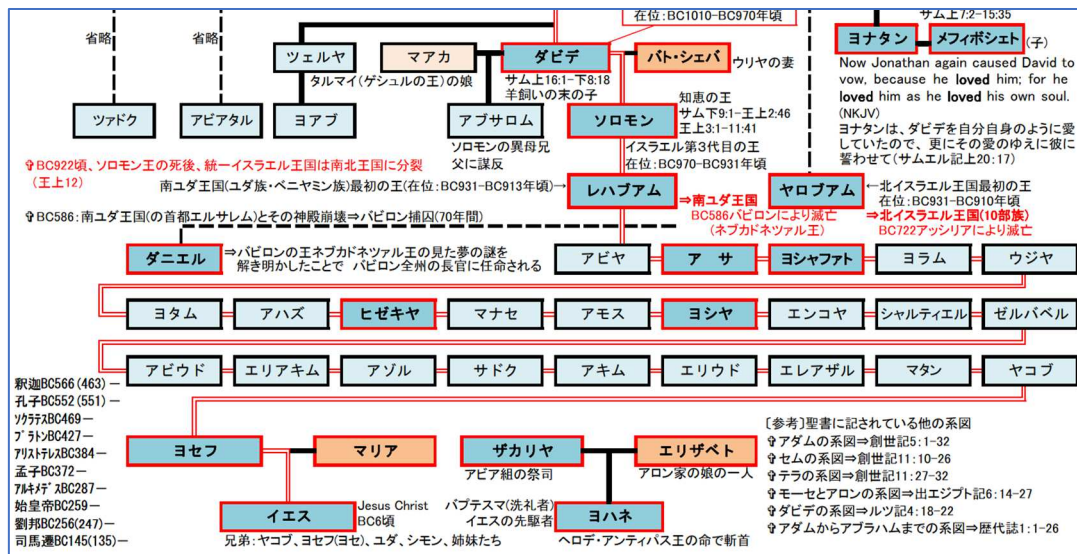
→イエスの評判は、この地方にも広がっていた。

→マルコによる福音書 7 : 24

イエスはそこを立ち去って、ティルスの地方に行かれた。

ある家に入り、だれにも知られたいかと思っておられたが、人々に気づかれてしまった。

→イスラエルの預言者はメシアがイスラエル史上、最も偉大な王であるダビデ王の家系から出ると語ったので、メシアは「ダビデの子」とも呼ばれた。



→カナン人は、旧約時代のイスラエルの敵の中で最も道徳的に墮落した民とされ、ヨシヤの軍勢は、神がカナン人を裁く器として用いられた。イエスの時代のユダヤ人たちは、サマリア人に対するのと同じように、カナン人に対しても偏見を持っていた。

23 しかし、イエスは (この女の信仰を試そうと) 何もお答えにならなかった。

そこで、弟子たちが近寄って来て願った。「(先生、この異邦人の女の願いを聞き届けていただいて、早く) この女を追い払ってください。叫びながらついて来ますので。」

24 イエスは、「わたしは、イスラエルの家の失われた羊のところにしか遣わされていない」とお答えになった。

→ (回復訳解説参考) 主はイスラエルの家の失われた羊に遣わされました。しかしながら、この時、主は異邦人の領域に来ておられました。ですから、主は恵みにあずかる機会を、異邦人に与えられました。これは、キリストはまずユダヤ人に来られて、彼らの不信仰のゆえに、キリストの救いが異邦人に転向したことを示しています(使徒 13 : 46. ローマ 11 : 11)。

25 しかし、女は来て、(神を礼拝するように) イエスの前にひれ伏し、「**主よ、どうかお助けください**」と言った。

→「ダビデの子よ」(22 節) という呼びかけがふさわしくないことを理解した女は「主よ」と訴えている。彼女は主を「ダビデの子」と呼ぶ権利はありませんでした。彼女は自分がイスラエルの子ではなく、異教徒であることを認識したからです。そのように呼ぶ特権は、イスラエルの子たちだけに与えられていたからです。

つまり、「主」という称号は、キリストの神性を暗示し、「ダビデの子」という称号は、イエス・キリストの人性を暗示します。異邦人であるカナンの女がイエス・キリストを「主」と呼んだのは正しい行いでした。

26 イエスが、「**子供たち (→ユダヤ人) のパンを取って小犬 (→異邦人) にやっちはいけない**」とお答えになると、

27 女は言った。「主よ、ごもつともです。しかし、小犬も主人の食卓から落ちるパン屑はいただくのです。」

→「犬」は、ギリシア語で「クオン」といい、「野犬」という意味合いがある。しかし、ここでは、異邦人を軽蔑した言葉ではない、「クナリオン」が使われ、「ペット」「愛犬」という表現となっている。

→ (回復訳解説参考) カナンの女は、「主」の言葉につまずくことなく、自分が異教の「犬」にすぎないことを認めた。当時キリストは①子供たちであるユダヤ人に退けられた後、②小犬(異邦人)の分け前として食卓の下のパンくずになられた。イスラエルの聖地は食卓であって、その上に天のパンであるキリストが、イスラエルの子供たちの分け前として来られました。しかし彼らはキリストを、食卓から異邦人の地に投げ落としました。ですから彼は、異邦人の分け前として砕かれたパンくずになられたのです。この時、この異邦人の女は、何という理解を持ったことでしょうか！天の王が彼女の信仰を賞賛されたのも、不思議ではありません(次節 28 節)。

28 そこで、イエスは(弟子たちでさえ理解できていない真理を、この女は理解していることが分かり)お答えになった。「**婦人よ、あなたの信仰は立派だ。あなたの願いどおりになるように。**」

そのとき、娘の病気はいやされた。

→ローマの信徒への手紙 11 : 17~18

しかし、ある枝が折り取られ、野生のオリーブであるあなたが、その代わりに接ぎ木され、根から豊かな養分を受けるようになったからといって、折り取られた枝に対して誇ってはなりません。誇ったところで、あなたが根を支えているのではなく、根があなたを支えているのです。

【参考】カナン Canaan

パレスチナ地方の古称。語源は、フェニキア人が自ら呼ぶのに用いた「ケナアニ(カナン)」に由来する(ケナアニには「商人」という意味がある)。

聖書で「乳と蜜の流れる場所」と描写され、神がアブラハムの子孫に与えると約束した土地であることから、「約束の地」とも呼ばれる。イスラエル人のカナン侵入後は、「イスラエルの地」(サムエル記上 13・19)、「ヘブライ人の地」(創世記 40・15)と呼ばれた。ギリシア人はここを「フェニキア」と呼んだ。